「幼保小連携だより」

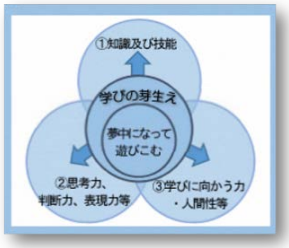
令和２年 11 月 12 日
第　５　号
こども青少年局　保育･教育人材課　幼保小連携担当

育ちと学びをつなぐ

保育・教育人材課　公式 YouTube チャンネル

～動画配信による「第 2 回幼保小接続期研修会」より（その２）～

「第２回幼保小接続期研修会」第２部の講演「接続期の子どもの支援をつなぐために」の内容を紹介します。講師は玉川大学教育学部乳幼児発達学科教授で、四季の森幼稚園長でもある若月芳浩先生です。冒頭に３月に策定された「よこはま☆保育・教育宣言～乳幼児の心もちを大切に～」《宣言２》にふれ、『子どもの育ちと学びを支える主体的な遊びを大切にします』の実現には、子どもの伸びようとしている力を見出す保育の方向性を共有し、その子にとって必要な支援を考えるために内面を深く読み取るなど専門性を高めることが重要であると現場の抱える状況を踏まえながら話してくださいました。



中でも年長児は、興味・関心のあることや実現したいことがあると、目標を達成するために熱中し、学びに向かう力を発揮していくという実践を、蚕の飼育を例に話してくださいました。桑の葉のえさやりやうんちの観察、糸織りからミサンガを織るまで活動が発展したことが紹介され、育みたい資質・能力の表れである「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、遊びに没頭する中で育ってくることが伝わってきました。自発的な活動としての遊びの中で、いかに学んでいるかを可視化し、発達の全体像を捉えてその子のよさや可能性を見出すことで、学びの基礎が培われていくという保育のプロセスを理解することができました。

【保育･教育人材課 YouTube 公式チャンネルの受講者のアンケートより】（11月4日現在の声より）

・一つ一つのお話が勉強になり、先生のお話に対して改めて自園の保育について学び、勉強になりました。子どもの育ち、学びの芽は幼児期の遊びの中にある・遊びを中心とした保育、こどもが主体的な保育の大切さをより感じ心に響きました。現段階では５歳児はいませんが、その５歳児につなげられる保育を行い、来年度はさらに５歳児が自己肯定感をもって小学校に進学できるように園全体で勉強していき取り組みたいと感じました。
・興味関心を受け止めてくれる人や場が子どもの自己肯定感を高め、子どもの活動を深めたり広めたりすることができると思いました。「安心の環境を作る」という第１部の実践や講評ともつながるお話でした。

《幼児期の学び　対話・深まり》

蚕の飼育からのつながり

大きさやうんちなどの観察

毎日のように糸を取ることに

衣装やミサンガがつくりたい
などの気持ちが沸いてくる

幼保小連携は接続期の保育・教育にとって重要な鍵になるので、イベント的な交流だけでなく、子どもの「学びの芽生え」が「自覚的な学び」へ変化していくプロセスを保育者と教師とで共有できるような連携に取り組み、個々の経験をその後の学びへと関係づけていってほしいとのご示唆をいただきました。乳幼児期の「遊びを通した学び」を園と学校がお互いに理解し、園では主体的な遊びを重視した活動の経験を豊かに重ねていくこと、小学校では園児の育ちや学び等、経験の質を理解し、「10 の姿」がどのように育っているか、一人ひとりの子どもの成長過程を見取っていくことが重要になる、という話は、第１部の鶴見小学校の実践報告や嶋野先生の講評と重なる講演だったと思います。

【保育・教育人材課 YouTube 公式チャンネルの受講者のアンケートより】（11 月４日現在の声より）

・「学びの物語」という言葉がとても印象に残り、そこから「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりのホントを得られそうです。
・子どもたちの支援のためのポイントだけではなく、現場が難しいと感じている点やそこをどのように改善、克服していったら良いのかというお話を聞けてよかったです。まずは出来ることから少しずつ周囲の理解を得ながら保育をしていきたいと思います。
・幼保小連携としては、支援や指導、声掛けが同じ流れで行うことで、児童のスムーズなスタートに繋がると学びました。

「第２回幼保小接続期研修会」は、おかげさまで１部・２部の合計視聴回数が 1,600 回を超えました。配信期間は 12 月 18 日（金）までとしていますので、残り一か月となります。

研修動画を視聴希望する場合は、右にあるＱＲコードを活用して、スマートフォンなどでぜひお申し込みください。

このＱＲコードを読み取ると、直接申込フォームに入れます。